

イレズミ規制に対する訪日中国人観光客の意識に関する一考察
—イレズミの文化的表象の理解に向けて—

藤岡美香子*

A Study on Chinese Tourists' Views of Japanese Tattoo Regulations at Hot Springs
as Reflected in a Questionnaire
—One Step toward the Consideration of the Cultural Meanings of Japanese Tattoos—

By

Mikako FUJIOKA

(Received DECEMBER 8, 2020)

Abstract

While various types of tattoos have been developed independently around the world, their development has also been seen to have mutual influences throughout history. This has come to the forefront in the recent racial interchange that has occurred due to globalism. At the time of inbound tourism as we are going through now, we often hear the news of foreign tourists, chiefly of racial minorities, complaining about the bathing regulations of Japanese hot springs against their tattoos. These incidents give us the chance to consider how various types of tattoo should be dealt with in the modern age.

As hot springs are one of the most popular destinations for foreign tourists, it is a pressing task to solve the issue of bathing regulations in Japan. This paper will try to make clear how Chinese tourists to Japan react to bathing regulations based on the results from a questionnaire. This research will be incorporated into research using the other surveys targeted at various racial and age groups in order to gain an extensive view of the issues involving bathing regulations. This is one of the two purposes of this research. The first purpose is tourism-oriented while the second one is related to cultural anthropology. Bathing regulations presuppose the unanimously negative views of Japanese tattoos, but is it actually true? With this second purpose I would like to revisit the nature of Japanese tattoos by tracing back their shifting cultural meanings.

*東海大学経営学部観光ビジネス学科専任講師

研究の背景と目的

外国人観光客が増加する中、イレズミがある人の公衆浴場の利用が制限されている日本の現状が注目されるようになり、筆者はイレズミに対する日本人の意識調査を行った。また、継続研究の中で、日本内外の様々な文化において、また時代によって、イレズミは、重要な伝統文化、自己表現の1つ、社会規範を逸脱した行為、芸術など、様々な文化的表象を持っていることが判明した。それにより、日本では、反社会的なものとして認識される傾向が強いが、外国では、文化的または宗教的背景があるもの、またはファッションとして一般社会で受容されている、というのはあまりにも単純化しすぎた議論であると言える可能性が明らかになった。

そこで本研究は、第1章において、山本芳美氏の『イレズミの世界』と『イレズミと日本人』をもとに、イレズミの歴史と多様な文化的表象についてまとめ、次に、現代の中国人がイレズミに対してどのような意識を持っているかを明らかにするために筆者が行った質問紙調査の結果を分析する。

本研究が研究対象とするイレズミには、「入れ墨」「タトゥー」「文身」「刺青」「彫物」など様々な表記が存在し、それぞれ歴史や目的、そして、想起されるもの、指し示すものが異なるという現実がある。本稿では、山本(2016)に倣い、皮膚に傷をつけ、色素で着色し文様を描く身体変工を総称して「イレズミ」と表記する。

第1章 イレズミの多様な文化的表象

1.1 イレズミのある外国人観光客の扱いで浮き彫りになった問題

マオリの女性が顔面に入れたイレズミのせいで入浴を断られた事件は、世界中で瞬く間に報道された。訪日外国人数の順調な伸びの中で、これまで「イレズミの方、入場お断り」を通してきた温泉や入浴施設では、イレズミのある外国人観光客の扱いに苦慮し、観光庁は2016年に「温泉とタトゥー」に関する指針を出して、「イレズミの文化的背景に配慮してイレズミがある人とならない人を分離して入浴させる」などの勧告を行った。しかしこの問題はイレズミが持つ複数の文化的表象の相違から生じているため、観光庁の指針がその本

質的な解決策になるとは考えにくい。

日本人のイレズミと少数民族のイレズミの本質的な違いは、日本人は「個人的嗜好」でイレズミを入れ、少数民族は自分の「民族に帰属する証し」としてイレズミを入れることである。したがって、少数民族にとってイレズミの規制とは、民族的アイデンティティの喪失につながる。明治時代に日本領となった沖縄や台湾で、政府は原住民のイレズミを規制したが、それは野蛮な風習をやめさせるという口実で、現地人を日本文化に同化させることを目的とした。日本人は背中、太もも、腕など衣服で隠せるところにイレズミを入れたため、取り締まりを受けてもその慣習は密かに存続したが、これらの現地人は顔面や手の甲にイレズミを入れたので、イレズミの慣習は一扫されやすかった。

植民地化により固有の文化を喪失した太平洋の多くの民族は、1970年以降、伝統や言語を取り戻す文化復興運動を始め、その意思表示としてイレズミを復活させている。先住民族の伝統的イレズミを現代的にアレンジしたものは「トライバル」と呼ばれ、先進国の若者の人気を博している。

1.2 イレズミ規制は暴力団追放のためなのか

イレズミは江戸時代以降、職人層(飛脚、駕籠かき、鳶、火消)で盛んになった風俗で、1950年代半ばまで、鳶、大工、仕事師はイレズミをしてないと格好がつかないとの意識があり、祭礼の時は若い衆のイレズミの見せ場となった。鳶は出世ものの図柄を彫って縁起を担ぎ、痛みをこらえることにも価値を見出した。ここに鳶の美意識とイレズミの深い関係がある。

しかし産業構造の変化で人口の7割がサービス業の時代になると、職人のイレズミ文化は影をひそめ、1960年代から盛んに制作されたやくざ映画の影響で、やくざ者=イレズミという日本人のイメージが形成された。「イレズミの方入浴お断り」の注意書きはその頃から温泉や入浴施設に現れ、1992年の「暴力団による不当な行為の防止等に関する法律」施行後、イレズミ=暴力団の認識に基づいた「お断り」が各施設に広がった。

他方、谷崎潤一郎の小説を映画化した『刺青』(1966)など、イレズミを彫った女性の魔性やエロスを強調する映画も現れ、これは日本のイレズミ独特の文化的表象になった。

やくざ映画で明白な「アウトロー」のレッテルを貼られる以前から、イレズミは非合法すれすれの「不良文化」のイメージを漂わせていた。明治政府による取り締まりの時代は言うまでもなく、合法化された戦後も彫師は裏稼業扱いされ、イレズミはアンダーグラウンドな立場に置かれている。

しかし 1980 年代以降、ロックバンドの影響でアメリカンタトゥーやトライバルなど様々な図柄が知られるようになり、イレズミはファッションに敏感な若者の注目を集めている。

その一方で、イレズミが無免許の彫師に施術されることで、血液の接触による感染症の危険を指摘する論文も存在している。日本のイレズミがより健全な文化的表象を獲得するには、イレズミの衛生管理の問題を解決する必要がある。

1.3 明治政府のイレズミ取り締まり

当時日本は半未開国とみなされており、文明国の植民地にされる不安を抱え、旧弊な風習を一掃して文明国になる使命があった。こうした改革は、裸体の露出や混浴、春画、彫り物などの禁止を唱える風俗改良につながっていく。

しかし明治政府にとって皮肉なことに、江戸時代後期に発達した浮世絵などをモチーフにした精緻で絵画的なイレズミが来日した欧米人を魅了して、英国王室王子やロシア皇太子も彫師の客になった。当時西洋で知られていたイレズミは、稚拙な図柄を 10 センチ四方に彫るのみで、身体全体で一つの絵を完成させる発想はなく、多彩な図柄の日本の彫り物は、ジャポニズム趣味の先駆けとなって受け入れられた。「道徳性」に配慮して規制したイレズミが、逆に欧米人から「芸術的」評価を得て、外国の賓客に頼まれて彫師を捜すことも、接待の仕事の一部になった。明治政府は外国人居留地で彫師の営業を黙認することになり、彫師は外国人が立ち寄る横浜、東京、京都、大阪、長崎などの開港場や、海を越えて香港、シンガポール、マニラなどで仕事をした。

当時は銭湯が利用されたので、彫り物をした者は容易に逮捕されたが、「これは以前のもの」と言い逃れをした。彫師は取り締まりで下絵や道具を押収されるので、別の表商売をしながら、裏商売でイレズミを彫っ

た。しかし「裏商売」という言葉の怪しさとはうらはらに、彫り物を求める客は大工、ブリキ屋、植木屋など「真っ当に商売をしている人」が多く、ばくち打ちや遊び人にイレズミを彫っても、腕の一部で終わっていた。つまり、大胆なイレズミがヤクザの背中全体を覆うイメージは、映画の作り上げた虚構の世界なのである。

1.4 文明国の美意識と少数民族の文化復興

欧米のイレズミの源流はポリネシアで、英語でイレズミを意味するタトゥーは、タヒチで「皮膚に印をつける」という意味の単語 tatau が英語に定着したものである。太平洋を旅した船乗りや軍人の間でイレズミの慣習が広がったが、19 世紀には一般社会ではまだ知られていなかった。1970 年代になり、美術教育を受けた彫師たちが現れ、彼らが、日本の伝統的な彫り物に着想を得て大胆に図柄を練り上げ、1980 年代にはトライバルと呼ばれる図柄を生み出した。また前衛芸術とボディアートが接近したことも、タトゥーが洗練される契機となった（山本 2005、342）。

日本のイレズミは世界のイレズミの発展に大きな影響を与えているが、外国との交流を通して、日本のイレズミも従来と異なる多様な文化的表象を持った。最初の例は明治維新である。明治政府が自国の文明化を急いで、イレズミという「野蛮」な風習を取り締まる時、日本が目標とした文明国の来客がイレズミの「芸術性」に注目して、日本社会のイレズミの存続を助けたのだ。

次は現在のインバウンドツーリズムの時代である。イレズミのある人が海水浴場や温泉から締め出される状況の中で、イレズミを入れた外国人が来日して、イレズミのネガティブな文化的表象に疑問を投げかける。2つの時代に共通しているのは、イレズミの「芸術性」や「民族的アイデンティティ」という異質な視点が外国から持ち込まれ、日本の「道徳的な」イメージに混ざり合って、イレズミに新たな視点を提供していることである。

1.5 イレズミ問題の現状とイレズミに関する意識調査の意義

「野蛮」と「文明」、「芸術性」と「道徳性」、「個人

的嗜好」と「民族のアイデンティティ」、「和」と「洋」など、イRezミは今まで相反する様々な文化的表象の間を揺れ動いてきた。グローバル化による外国人との交流の加速、ファッションに敏感な若い世代のイRezミへの関心などの影響で、日本ではネガティブに見られがちなイRezミの文化的表象が、新たな方向に変化することが十分に予想される。このような状況で、国籍、民族、世代、性差など、様々なグループ間のイRezミに関する意識の違いを調査して研究することは、インバウンドツーリズムや文化人類学の進展に大きく寄与すると思われる。

第2章 中国人のイRezミに対する受容

第1章で示したように、相反する様々な文化的表象を持つイRezミが、国籍、民族、世代など、異なる属性を持つグループから、どのような意識で受け止められているかを明らかにする調査として、日本人を対象に行った藤岡（2018）に引き続き、本研究では、訪日観光を経験したことがある中国人を対象として質問紙調査を行った。本研究が対象とした「中国人」とは、中国語を話し、簡体字または繁体字で書かれた質問に答えることが可能な中国、台湾に在住の人を指す。

2.1 調査

2.1.1 調査項目

主として下記の3点について質問紙調査を行った。

- (1) 日本訪問について（回数、滞在中の楽しみ）
- (2) イRezミがある人に対する印象
- (3) 日本でイRezミがある人が、多くの場合、公衆入浴施設を利用できないことに対する意識

中国語の質問紙作成は、東海大学経営学部観光ビジネス学科教授顧文先生にご協力いただき、翻訳を行った。（実際に使用した質問紙は、付録のとおり）

2.1.2 調査対象者

2018年6～10月に、日本国内（福岡県、熊本県）と中国上海市において質問紙調査を行い、91人から有効回答を得た。対象者の性別、年代、居住地、訪日回数は以下のとおりである。

性別： 男性48人、女性43人

年代：対象者の年代別の人数は表1のとおりである。

表1. 調査対象者年代別内訳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
男性	0	19	18	5	4	1	1	0
女性	3	16	10	4	4	4	1	1

（単位：人）

居住地： 上海：82人、香港：2人、台湾：7人

訪日回数：対象者の訪日回数別の人数は表2のとおりである。

表2. 調査対象者訪日回数別内訳

	1回	2回	3回	4回	5回	6回～
男性	18	14	11	4	0	1(12回)
女性	12	15	7	2	5	2(6回、10回)

（単位：人）

年代別と訪日回数別の区分では、1区分内の人数が非常に少ないグループがあるため、以後の調査結果の分析は、年代別は「～20代」「30代」「40代」「50代」「60代～」の5グループ、訪日回数別は「1回」「2回」「3回」「4回」「5回～」の5グループに分けて行う。

2.1.3 結果

(1) 訪日観光の楽しみ

日本滞在中に行いたいことを複数回答可で尋ねた結果は以下の図1～3のとおりである。

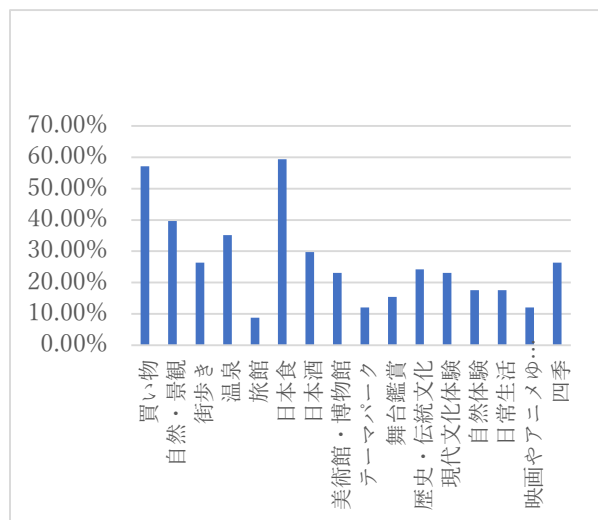


図1. 訪日観光で楽しみなこと（全体）

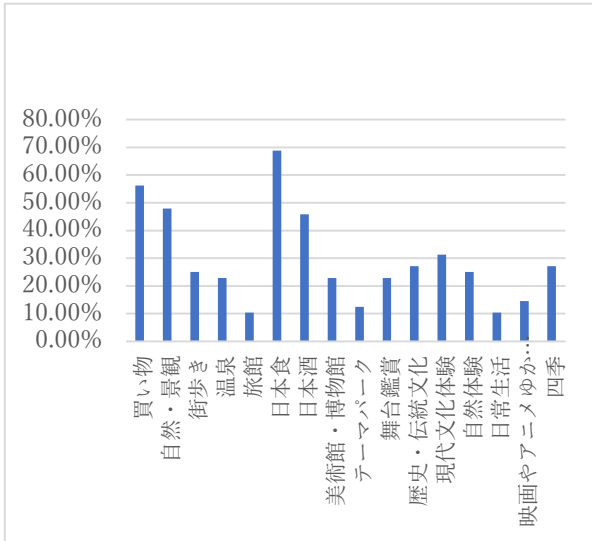


図2. 訪日観光で楽しみなこと (男性)

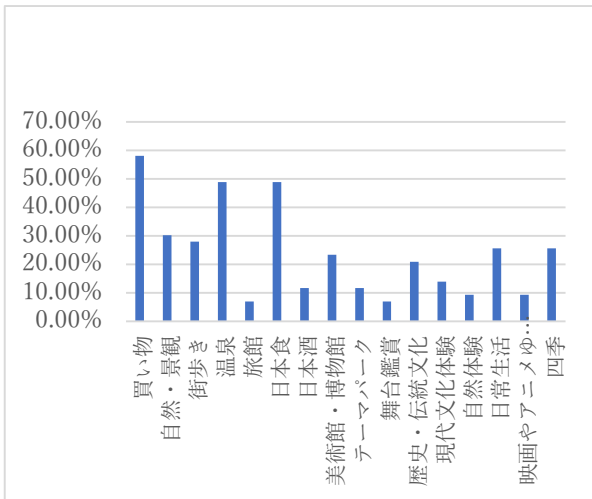


図3. 訪日観光で楽しみなこと (女性)

図1からわかるように、中国人観光客全体では、楽しみとしては「日本食」が59.3%で最も多く、次いで「買い物」が57.1%、「自然・景観」39.6%、そして4番目に35.2%で「温泉」が挙げられている。男性観光客の回答も最も多いのは「日本食」で68.8%、「買い物」が2番目で56.3%、47.9%の「自然・景観」、45.8%の「日本酒」が続いている。女性は、「買い物」が58.1%と最も多く、「温泉」と「日本食」がともに48.8%で2番目に多い結果となっている。

これらのことから、日本滞在中の楽しみとしては、「日本食」「買い物」が性別を問わず人気があること、「温泉」に関しては、全体で3人に1人、女性は約半

数の人が楽しみにしているということがわかる。観光庁が毎年実施している「訪日外国人消費動向調査」でも示されているように、「訪日外国人観光客の大きな楽しみの1つが温泉である」ことは、本研究の調査対象者についても当てはまる結果となっている。

次に、調査対象者の訪日経験回数によって、滞在中の楽しみに変化があるのかを分析したい。

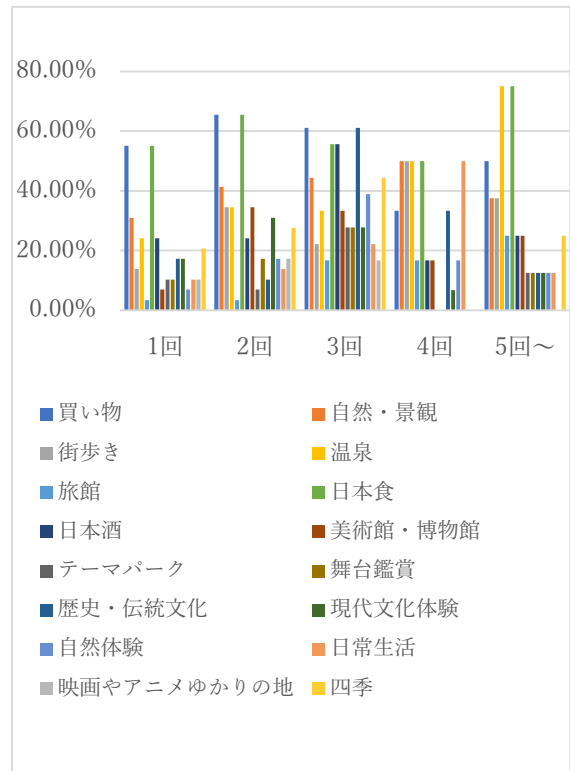


図4. 訪日観光で楽しみなこと (訪日回数別)

訪日回数別に分析すると、訪日経験 1~2 回の旅行者にとっては「買い物」と「日本食」がそれぞれ 55.1%、65.5%と顕著に多いが、3 回目では、「歴史・伝統文化」(61.1%)、「日本酒」(55.6%) も増えており、旅の楽しみ・目的が多様になってくるようである。4 回以上の訪日観光経験者になると、「温泉」が 50%、75%と、楽しみなことの1つとして定着していることがうかがえる。

(2) イレズミがある人に対する印象

質問紙調査において、イレズミがある人を見た際の印象として最も当てはまるものを1つ選択してもらった結果が、図5~7である。

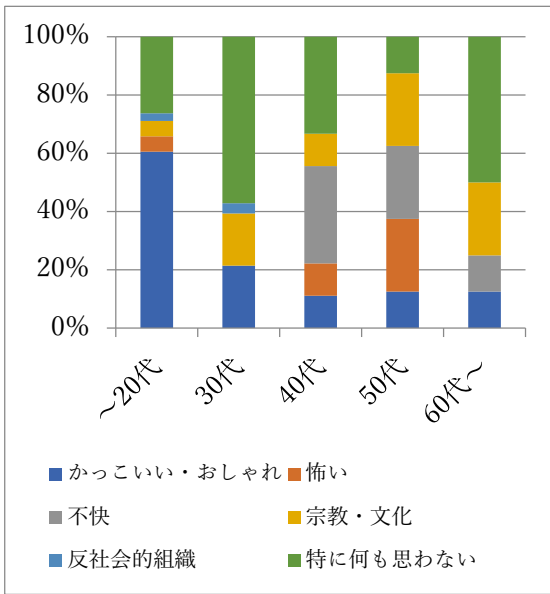


図5. イRezミがある人に対する印象 (全体)

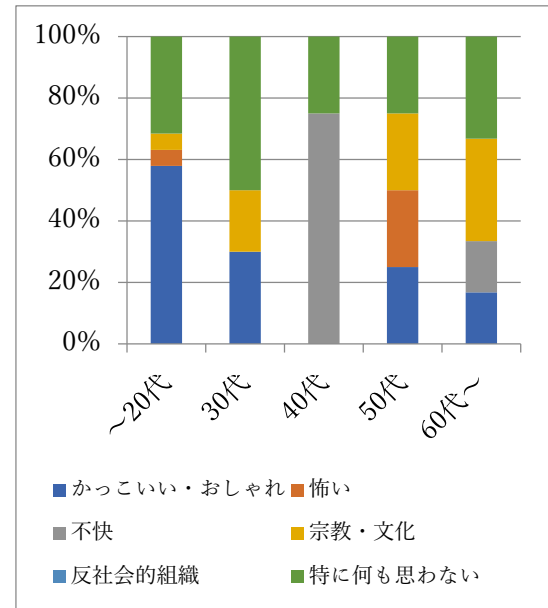


図7. イRezミがある人に対する印象 (女性)

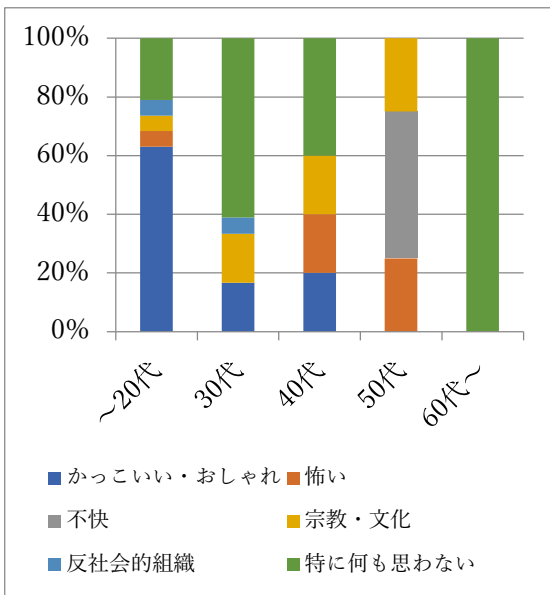


図6. イRezミがある人に対する印象 (男性)

図6、図7からわかるように、20代以下の人は、「カッコいい・おしゃれ」と感じる人が男性では63.1%、女性では57.9%、「特に何も思わない」という人が、男性は21.1%、女性は31.6%であった。また、図5からもわかるように、イRezミに対して「宗教や文化的理由」を想像する人がすべての年代において、20代以下の人の5.3%から60代以上の人の25%まで、年代が上がるにつれて増える傾向が見られた。若年層では男女ともに85%前後の人が、イRezミに対して、プラス、または中立的な印象を持っていると言えそうである。30代もこの傾向は続き、男性が78.8%、女性は80%がプラス、または中立的な印象を持っている。40代、50代では、男女ともに「怖い」「不快である」と答えた人が20%以上存在するようになり、マイナスの印象を持つ人が一定の割合見られるようになる。また、「反社会的組織との関係」を想像する人は、男性の20代、30代のそれぞれ5%程度で、ほとんどいなかった。

以上のことから、イRezミに対する中国人の印象は、年齢によって変化があり、30代以下の人では、プラスの印象を持っているか、特に何も感じないという人が大多数で、その中には、「宗教や文化的理由」を想像する人も一定数いた。40代以上では「怖い」「不快だ」というマイナスの印象を持つ人も一定数いるが、その中に反社会的勢力と関連づける人はほとんどおらず、性別による大きな違いは見られなかった。

2.2 日本人の意識との比較

筆者は2017年に日本人約350人を対象に、イRezミのある人に対する印象を調査している。本研究の調査対象者である中国人と日本人が、イRezミのある人に対して持つ印象にどのような違いがあるのか、ここで比較分析したい。

藤岡(2018)では、イRezミがある人が日本人である場合とそうでない場合に分けて、その印象を調査した。図8～11は、日本人男性、日本人女性が、イRezミのある日本人とイRezミのある日本人以外の人に対して感じる印象を、本研究の区分にあわせて、5つの年代別に再分類し、グラフ化したものである。

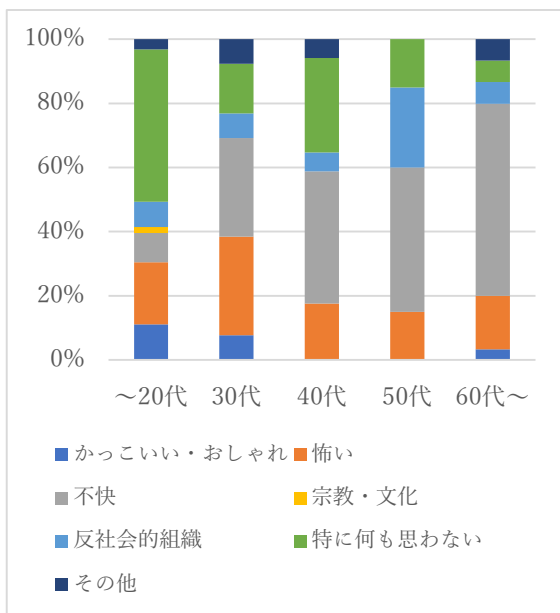


図8. イRezミがある日本人への印象 (男性)

日本人のイRezミには「怖い」「不快である」というマイナスの印象を持つ人が、20代以下の人で約30%、30代～50代は約60%で、60代以上では77%存在した。また、「反社会的勢力との関係」を想像する人が、年代によって差はあるが、6～25%の割合で存在した。逆に、「カッコいい・おしゃれ」というプラスの印象を持つ人は、最も多い20代以下のグループでも11%に過ぎなかった。

20代以下の若年層では「特に何も思わない」という中立的な立場の人も48%と半数近く存在しているが、30代以上の日本人男性は、日本人のイRezミに対して

は総じて「怖い」「不快である」「反社会的勢力との関係」というマイナスの印象を抱く傾向が示されている。

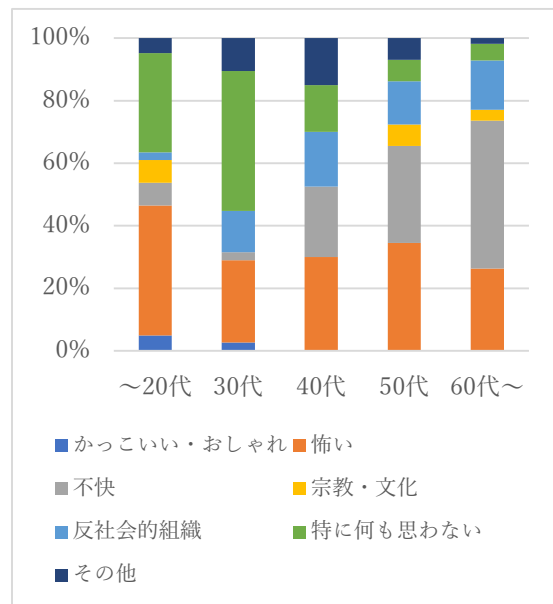


図9. イRezミがある日本人への印象 (女性)

女性の場合、日本人のイRezミには「怖い」「不快である」という印象を持つ人が、20代以下で約50%、30代は約30%、40代は約53%で、60代以上は約75%と、年代が上がるにつれて徐々に割合が増える傾向が見られた。また、「反社会的勢力との関係」を想像する人は、20代以下では2.4%だったが、その他の年代ではそれぞれ15%前後の割合で存在した。逆に、「カッコいい・おしゃれ」というプラスの印象を持つ人は、最も多い20代以下のグループでも約5%であった。

20代以下、30代には「特に何も思わない」という中立的な立場の人も30～45%と多く存在しているが、40代以上の日本人女性は、日本人のイRezミに対しては総じて「怖い」「不快である」「反社会的勢力との関係」というマイナスの印象を抱く傾向が示されている。

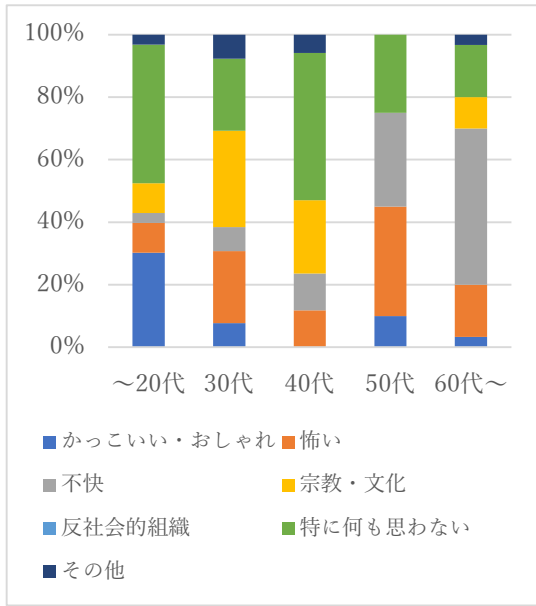


図10. イRezミがある日本人以外の人への印象 (男性)

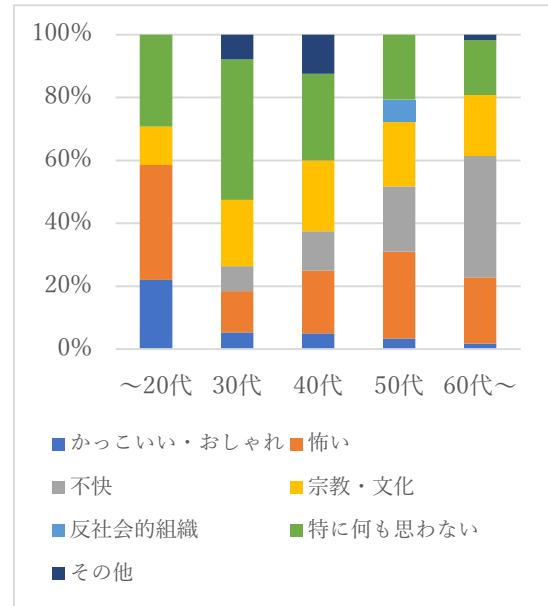


図11. イRezミがある日本人以外の人への印象 (女性)

日本人以外の人へのイRezミに対して男性は、「宗教や文化的理由」を想像する人が、50代以外の各年代で約10~30%の割合で存在した。「かっこいい・おしゃれ」「特に何も思わない」「宗教や文化的理由」というプラス、または中立的な印象を持つ人が、20代以下では約85%で、年代が上がっていくにつれて、60%、70%、35%、30%と割合が下がっていく傾向があった。また、逆に、「反社会的勢力との関係」を想像する人はいなかったが、他の「怖い」「不快」というマイナスの印象を持つ人は、20代以下では約13%で、年代が上がっていくにつれて、30%、25%、65%、67%と割合が上がっていく傾向があった。

日本人以外の人へのイRezミに対しては、日本人のイRezミに対してはなかった「宗教や文化的理由」という要素が入ってくるが、若い年代ほどプラス、または中立的な印象を持つ人の割合が高く、年代が上がるにつれて「怖い」「不快である」というマイナスの印象を持つ人の割合が高くなる傾向が示されている。

女性の場合も日本人以外の人へのイRezミに対しては、「宗教や文化的理由」を想像する人が、どの年代にも約20%存在した。「かっこいい・おしゃれ」「特に何も思わない」「宗教や文化的理由」というプラス、または中立的な印象を持つ人が、20代以下は約63%で、年代が上がっていくにつれて、おおよそ70%、55%、45%、40%と割合が下がっていく傾向があった。また、逆に、「反社会的勢力との関係」を想像する人はいなかったが、他の「怖い」「不快」というマイナスの印象を持つ人は、20代以下では約37%で、年代が上がっていくにつれて、約20%、33%、48%、60%と、完全に比例しているわけではないが、割合が上がっていく傾向があった。

日本人以外の人へのイRezミに対しては、日本人のイRezミにはなかった「宗教や文化的理由」という要素が入ってくるが、若い年代ほどプラス、または中立的な印象を持つ人の割合が高く、年代が上がるにつれて「怖い」「不快である」というマイナスの印象を持つ人の割合が高くなる傾向が示されている。

以上から、日本人がイRezミのある人に対して持つ印象について、次のように特徴をまとめることができる。

日本人のイRezミに対しては、男女ともに20~30代では、2~3人に1人が、特別な印象を持たないという

結果であったが、「カッコいい・おしゃれ」という積極的なプラスの印象を持つ人は少なかった。そして、年齢が上がるにつれ、マイナスの印象を持つ人の割合が増え、「怖い」「不快である」に加えて「反社会的勢力との関係」をイメージする人も少なくなかった。

日本人以外の人のイレズミに対しては、男女とも20代以下では、「カッコいい・おしゃれ」という積極的なプラスの印象を持つ人が2~3人に1人は存在した。また、「宗教や文化的理由」を想像する人も一定数見られた。年齢が上がるにつれ、「怖い」「不快である」というマイナスの印象を持つ人が増えたが、その中に「反社会的勢力との関係」をイメージする人はいなかった。

イレズミのある人が日本人の場合は「反社会的勢力との関係」、日本人でない場合は「宗教や文化的理由」をイメージするという顕著な特徴が見られた。

これらを、中国人がイレズミのある人に対して持つ印象と比較すると、以下のことが言える。

2.1.3 (2)で示したように、中国人は、20代以下では男女ともに85%前後の人が、イレズミに対して、プラス、または中立的な印象を持っていた。30代もこの傾向は続き、男女ともに80%前後は、プラス、または中立的な印象を持っており、40代以上で、男女ともに「怖い」「不快である」というマイナスの印象を持つ人が、20%以上と一定の割合見られるようになる。

つまり、中国人の若年層ではイレズミに対して「カッコいい・おしゃれ」というプラスの評価をする人が、他の印象と比較して群を抜いて多く、マイナスの印象を持つ人は非常に少ない。それに対し日本人の場合は、若年層においても「カッコいい・おしゃれ」という積極的なプラスの印象を持つ人が顕著に多い状態ではない。日本人以外の人の入れ墨（タトゥー）に対して、若年層の日本人女性が、「怖い」と「カッコいい・おしゃれ」と感じる人が同程度で存在し、その年代区分において、それぞれ最も多くなっている程度である。

また、中国人はイレズミと反社会的勢力とを結びつけて考える傾向が見られなかったのに対し、日本人は、日本人のイレズミがある人には反社会的勢力との関係を想像する場合もあるが、日本人以外の人のイレズミに対してはそのような印象を持たないという違いがあった。

中国人は、イレズミに対して、宗教や文化的理由を想像することがあるが、日本人は、日本人以外の人のイレズミに対してのみ、この印象を持つことが示された。

以上のことから、日本人と中国人のイレズミのある人に対する印象を要約すると、男女ともに中国人のほうが、プラス、または中立的な印象を持っていると言えそうだ。また、中国人はイレズミと「反社会的勢力との関係」を結びつける傾向はなく、日本人は、日本人以外の人のイレズミにのみ「宗教や文化的理由」の可能性を想像する傾向があるようだ。

(3) 日本でイレズミがある人が、多くの場合、公衆入浴施設を利用できないことに対する意識

第1章にもあるように、日本では、温泉や銭湯、旅館などの公衆入浴施設では、イレズミがある人の利用を断っているところが多い。これは、警視庁や厚生労働省が定めた規則ではなく、施設が独自に、または業界で申し合わせて適用している一種の“ルール”である。本研究では、イレズミがある人が公衆入浴施設を利用できない“イレズミルール”に対する意識についても調査を行った。図12~14は、結果を調査対象者の年代別に、図15~17は訪日回数別にグラフ化したものである。

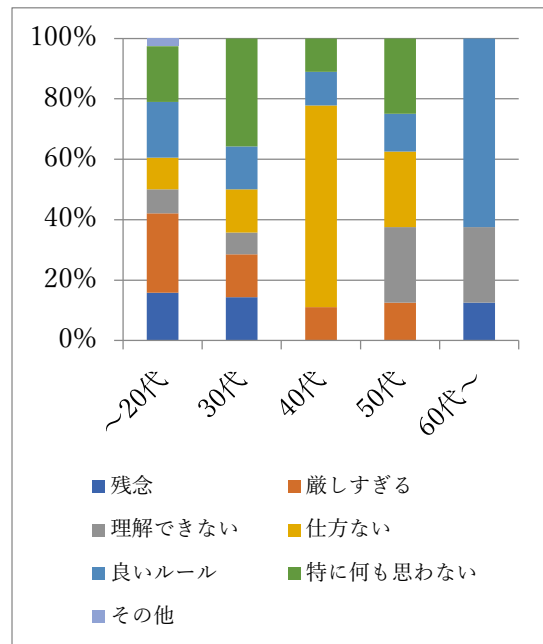


図12. イレズミがある人の公衆入浴施設利用不可について (年代別)

年代別に分析すると、20代以下の若年層では、「残念」「厳しすぎる」「理解できない」と否定的な意見が50%を占めている。年代が上がると、その割合は35.7%、11.1%と減少し、50代以上では「仕方ない」「特に何も思わない」という人も含め、肯定的、または中立的な感想を持つ人が60%を超えていることがわかる。

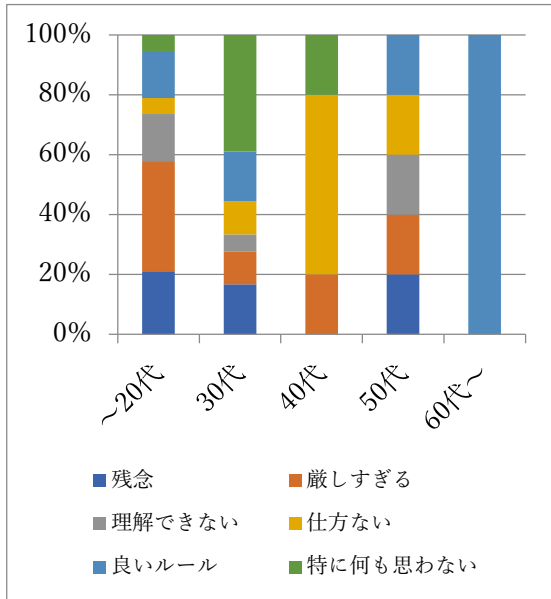


図13. イレズミがある人の公衆入浴施設利用不可について
 (男性回答者、年代別)

20代以下の若い男性では、「残念」「厳しすぎる」「理解できない」という否定的な評価が70%を超えている。それが30代では33%、40代では20%と減少し、60代以上では「良いルール」という評価が100%となっている。50代では否定的な評価が60%を占めているが、年代が上がると、「イレズミルール」が受け入れられている傾向にあるのではないかと考えられる。

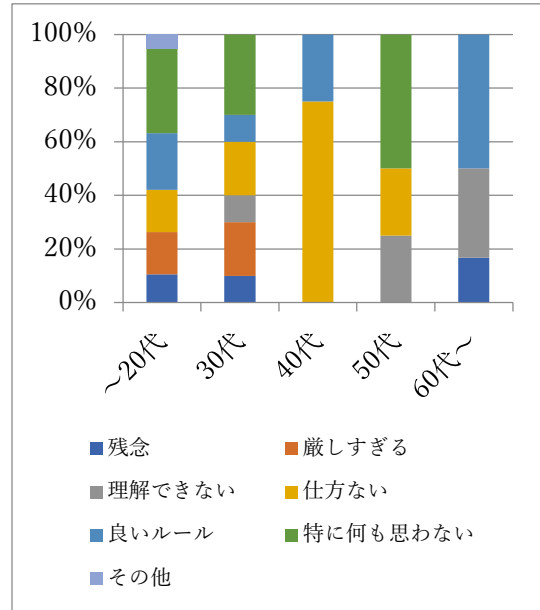


図14. イレズミがある人の公衆入浴施設利用不可について
 (女性回答者、年代別)

20代以下の女性は、「イレズミルール」に対して「特に何も思わない」という人を含めると、肯定的、または中立的な評価が約70%存在する。同様に、他の年代もそれぞれ60%、100%、75%、50%存在している。男性のように否定的な評価をする人が70%を超えるような年代もなく、全体としては、女性は年代にあまり関係なく、イレズミのある人が公衆入浴施設を利用できない「イレズミルール」を、積極的に、または消極的に受け入れている様子が見られる。

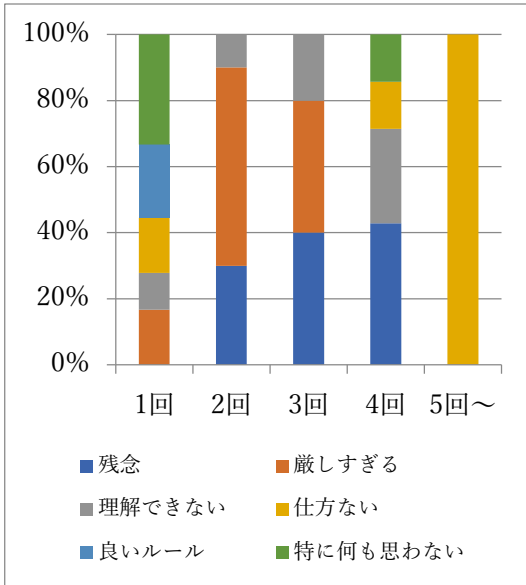


図 15. イレズミがある人の公衆入浴施設利用不可について (訪日回数別)

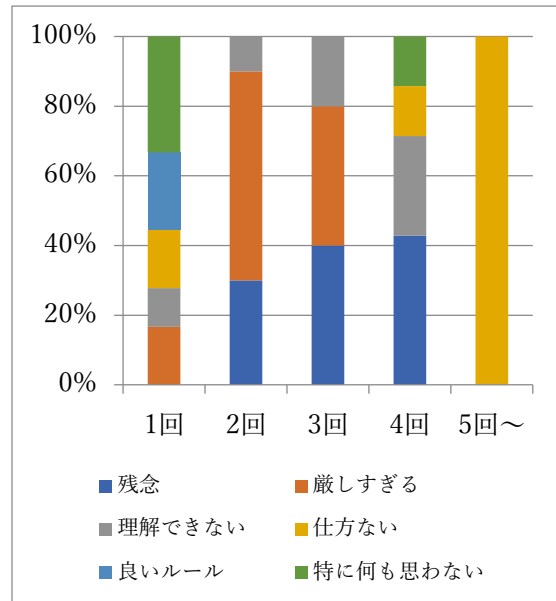


図 16. イレズミがある人の公衆入浴施設利用不可について (男性回答者、訪日回数別)

日本をこれまでに何回訪れたことがあるかという訪日回数別に“イレズミルール”に対する意識を分析すると、訪日経験が1回の人には「仕方ない」「特に何も思わない」という人も含め、肯定的、または中立的な感想を持つ人が75%を超えている。しかし、2回、3回の人には、「残念」「厳しすぎる」「理解できない」という回答がそれぞれ50%を超え、約半数の人が否定的な意見を持っているようである。4回以上の訪日経験者は、再び、肯定的、または中立的な感想を持つ人が65～75%を超え、日本のルールを受け入れる方向に傾いていると言えそうだ。

訪日経験が1回の男性は、「残念」「厳しすぎる」「理解できない」という否定的な評価が27.8%だが、2回、3回の人には100%、4回の人にも71.5%となっている。5回以上の人には“イレズミルール”を「仕方ない」と受け入れているようだが、全体としては、訪日経験が1回の人より、複数回の経験者の方が“イレズミルール”を否定的に受け止めている様子が見えてくる。

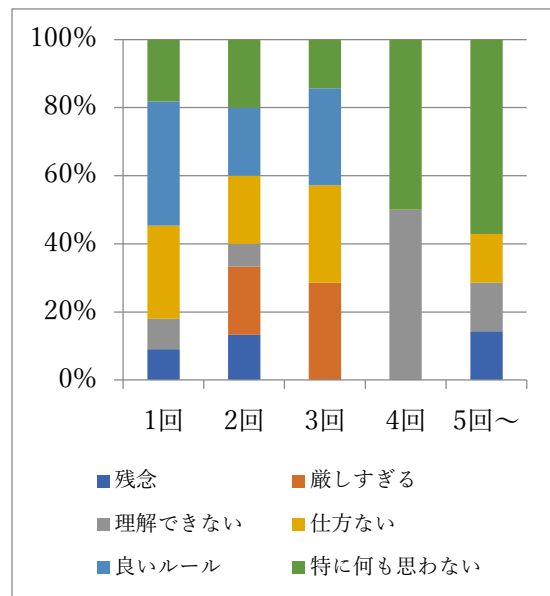


図 17. イレズミがある人の公衆入浴施設利用不可について (女性回答者、訪日回数別)

訪日経験が1回の女性は、“イレズミルール”に対して「特に何も思わない」という人を含めると、肯定的、または中立的な評価が80%を超えている。同様に、2回～5回の人でもそれぞれ60%、70%、50%、70%存在している。全体としては、女性は訪日経験の回数にあまり関係なく、イレズミのある人が公衆入浴施設を利用できない状況を、積極的、または消極的に受け入れている様子がうかがえる。

以上のことから、日本では、イレズミがある人は温泉や銭湯、旅館などの公衆入浴施設を利用できない“イレズミルール”に対する中国人の意識をまとめると、否定的な評価は20代以下の若年層、特に若い男性に多い傾向があり、女性は年代を問わず、積極的、または消極的にルールを受け入れている傾向が見られる。訪日回数別では、訪日経験が1回の人には“イレズミルール”を受け入れている人が多いのに対し、回数を重ねると否定的な意見を持つ人のほうが過半数を占めるようになり、この傾向は特に男性で強い。さらに訪日回数が増えると、再び、プラス、または中立的な感想を持つ人が増え、日本の現状を消極的にでも受け入れた上でリピーターとして日本観光を重ねている可能性が示されている。

2.2 で見たように、イレズミに対しては、日本人よりプラスの印象を持つ人が多い中国人だが、だからと言って、イレズミを否定しているという解釈も可能な“イレズミルール”に関しては、非常に強い反発を示しているわけでもなく、積極的、または消極的に現状を受容しているようである。

第3章 結論

本研究は、相反する様々な文化的表象を有するイレズミに対して、訪日経験がある中国人がどのような意識を持っているのかを質問紙調査を通して明らかにし、日本人の意識と比較することを試みた。その結果、以下の共通点と相違点を見出すことができた。

まず、年代によってイレズミに対する意識が異なり、若年層ほどプラスの印象を持ち、年齢が上がるにつれてマイナスの印象を持つ人が増加する傾向が共通して見られた。しかし、どの年代も、日本人と中国人を比較すると、中国人のほうがイレズミに対して肯定的で、

寛容な態度を持っていた。また、「反社会的勢力」とイレズミを結び付ける傾向は日本人に特有のものであった。王(2009)は、中国においてもイレズミが懲罰の象徴として用いられた時代があったことを示しているが、現代の中国人がイレズミに与える文化的表象に「反社会的勢力」とのつながりがほぼ存在していないのは興味深い。第1章にあるように、文化的表象は歴史の中で変化するが、1960年代のやくざ映画の影響により、イレズミは日本人の意識の中で反社会的勢力と強く結び付けられ、日本人に特徴的で、かつ根強く継承されている文化的表象の1つになっていることが裏付けられている。

また、イレズミのある人の公衆浴場利用を認めない“イレズミルール”を適用している施設が多い現状について、訪日経験のある中国人の多くは、受容の積極性に差はあっても概ね受け入れていることがわかった。その背景には、異文化を尊重しようという姿勢や「不自由さ」「不可解さ」も含めて異文化を受け入れ、楽しむことが旅の醍醐味という理解が存在しているのではないかと考えられる。また、調査対象者自身がイレズミを入れておらず、自分と直接利害関係がある“ルール”ではないことも背景にある可能性がある。

インバウンドツーリズムという新たな民族的交流の時代を迎えて、「温泉の外国人観光客のトラブル」としてメディアで取り上げられた“イレズミルール”の問題は、イレズミの文化的表象の問題から生まれている。外国人のイレズミにある背景が、誤解されたり、あまりにも単純化されて受容されているだけではなく、イレズミを入れた日本人＝ヤクザという偏見も再考の余地がある。日本の観光立国としての今後の発展は、国内外のイレズミの文化的表象を正しく理解できるかどうかにかかっている、と言っても過言ではない。

今後の課題としては、まず調査対象者に関することが挙げられる。今回の調査は「中国人」を対象として行ったが、対象数が91人と少なかったこと、また、上海、香港、台湾という大都市居住者のみだった点が、調査結果に影響を及ぼしている可能性は十分にある。今後は、調査対象者数を増やし、居住地域を広げることで、中国人がイレズミに与えている文化的表象をより正確に把握することができると考える。また、文化的な表象は時を経て変化するものであるから、継

続的な調査が必要である。そして、藤岡（2018）と本研究において、日本人と中国人の意識の一端を把握することができたが、韓国人など他のグループに対象を広げて調査を行うことで、「現代人」がイレズミをどのようにとらえているかの全体像の把握が可能になるだろう。

最後に、この論文の学問的意義について述べてみたい。イレズミは人類の身体加工技術の1つとして、昔から現在まで様々な目的で多くの民族に使用されてきた。イレズミの文化的表象の変遷は、各民族の社会的文化的発展を反映し、その研究は文化人類学上の成果につながる。しかし、近代以降のイレズミのアンダーグラウンドな歴史のために、その研究は必ずしも1つの研究領域として日本で確立されていない。日本のイレズミルールや温泉での外国人観光客のトラブルを見ると、日本におけるイレズミの文化的表象の変遷を、文化人類学的にさらに解明する必要があると、筆者は考えている。

参考文献

- 王曉東 (2009) 「中国の文身習俗の特徴」『ビエネス：群馬県文化財研究会論文報告集』(15) 2009.02 pp. 12-18
- 祖父江孝男 (1990) 『文化人類学入門 (増補改訂版)』中央公論新社
- 高橋祐次 (2020) 「若者の温泉入浴における入れ墨・タトゥーの意識調査について～観光学専攻学生へのアンケートを通して～」『温泉地域研究』第34号 pp. 13-24
- 藤岡美香子 (2018) 「訪日外国人旅行者の快適な日本体験のための環境整備に関する一考察 入れ墨 (タトゥー) がある人の公衆浴場利用の視点から」『東海大学経営学部紀要』第5号 pp. 11-21
- 藤岡美香子 (2020) 「入れ墨 (タトゥー) の歴史と社会における受容に関する一考察」『東海大学経営学部紀要』第7号 pp. 14-22
- 前田 聡 (2020) 「入れ墨がある外国人旅行者に対する入浴規制について 一観光庁「入れ墨 (タトゥー) がある外国人旅行者の入浴に際し留意すべきポイントと対応事例」の憲法的考察一」『流経法学』第19巻第2号 pp. 147-171
- 山本芳美 (2005) 『イレズミの世界』河出書房新社
- 山本芳美 (2016) 『イレズミと日本人』平凡社新書
- 山本芳美 (2016) “日本の彫り師はいつから認められてきたのか” SYNODOS-シノドス
<https://synodos.jp/culture/17323>
- 吉岡郁夫 (1989) 『身体の文化人類学』雄山閣出版
- Brian, Robert (1979) *The Decorated Body*, Hutchinson & Co. Ltd.
- Mallon, Sean and Galliot, Sebastien (2018) *TATAU A History of Samoan Tattooing*, University of Hawaii Press
- Sanders, Clinton R. and Vail, D. Angus (2008) *CUSTOMIZING THE BODY Revised and Expanded Edition*, Temple University

付録

关于对纹身（刺青）认识意识的问卷调查（简体字版）

随着访问日本的外国游客的逐年增加，由于文化差异而引起的各种误解和麻烦，也越来越成为让人们关注的问题。其中之一，就是在日本的很多公共洗浴设施中，会有拒绝刺有纹身（刺青）的游客入浴的情况。

日本东海大学经营学部观光经营学科的跨文化交流研究室，为了能够更好地给访日外国游客提供一个最佳的旅行环境，正在进行对外国游客的意识调查。

对来自游客的宝贵数据，以提高日本旅游环境的服务水平为目的，进行各种统计处理分析研究以外，不会有其他使用。感谢您的合作。

请圈出适合您的项目

性别： 男 女

年龄： 10 多岁 20 多岁 30 多岁 40 多岁 50 多岁 60 多岁 70 多岁 80 多岁

地区：()

1. 这次是您第几次来日本？

- ① 第一次 ② 第二次 ③ 第三次 ④ 第四次 ⑤ 五次以上（次数： ）

2. 在访问日本中，您最想体验的是什么？（可以复数选择，请画上圆圈）

- ① 购物 ② 观赏自然景观 ③ 游逛市中心繁华区 ④ 泡温泉 ⑤ 住日式旅馆
 ⑥ 吃日本料理 ⑦ 喝日本酒 ⑧ 观赏美术馆、博物馆 ⑨ 游览主题公园
 ⑩ 舞台欣赏（歌舞伎、戏剧、音乐等） ⑪ 体验日本传统文化
 ⑫ 体验日本当代文化（时尚、动漫画等） ⑬ 体验魅力乡村之旅 ⑭ 体验当地的日常生活
 ⑮ 访问电影或动漫画背景基地 ⑯ 体验四季（赏樱花、看海、观红叶、滑雪等）

3. 看见刺有纹身（刺青）的人，您的第一印象会是下面的哪一个？请选择一个最接近您印象的。

- ① 很酷、帅气 ② 恐怖、害怕 ③ 不愉快 ④ 会有宗教或文化的理由的吧
 ⑤ 是不是属于反社会组织的人呢 ⑥ 不觉得有什么特别的 ⑦ 其它（ ）

4. 在日本有很多公共入浴设施（温泉设施、宾馆或旅馆的大浴场）是拒绝刺有纹身（刺青）的人入浴的，您知道这一规定吗？

- ① 知道 ② 不知道

5. 在日本有很多公共入浴设施（温泉设施、宾馆或旅馆的大浴场）拒绝刺有纹身（刺青）的人入浴，对于这一规定，您有什么看法吗？

- ① 太遗憾了 ② 过于严格 ③ 不能理解 ④ 如果这是日本的规则就没办法了
 ⑤ 是一个好规定 ⑥ 没什么特别的看法 ⑦ 其它（ ）

谢谢您的合作

關於對紋身（刺青）認識意識的問卷調查（繁體字版）

隨著訪問日本的外國遊客的逐年增加，由於文化差異而引起的各種誤解和麻煩，也越來越成為讓人們關注的問題。其中之壹，就是在日本的很多公共洗浴設施中，會有拒絕刺有紋身（刺青）的遊客入浴的情況。

日本東海大學經營學部觀光經營學科的跨文化交流研究室，為了能夠更好地給訪日外國遊客提供壹個最佳的旅行環境，正在進行對外國遊客的意識調查。

對來自遊客的寶貴數據，以提高日本旅遊環境的服務水平為目的，進行各種統計處理分析研究以外，不會有其他使用。感謝您的合作。

請圈出適合您的項目

性別：男 女

年齡：10 多歲 20 多歲 30 多歲 40 多歲 50 多歲 60 多歲 70 多歲 80 多歲

地區：()

1. 這次是您第幾次來日本？

① 第一次 ② 第二次 ③ 第三次 ④ 第四次 ⑤ 五次以上（次數： ）

2. 在訪問日本中，您最想體驗的是什麼？（可以復數選擇，請畫上圓圈）

① 購物 ② 觀賞自然景觀 ③ 遊逛市中心繁華區 ④ 泡溫泉 ⑤ 住日式旅館
⑥ 吃日本料理 ⑦ 喝日本酒 ⑧ 觀賞美術館、博物館 ⑨ 遊覽主題公園
⑩ 舞臺欣賞（歌舞伎、戲劇、音樂等） ⑪ 體驗日本傳統文化
⑫ 體驗日本當代文化（時尚、動漫畫等） ⑬ 體驗魅力鄉村之旅 ⑭ 體驗當地的日常生活
⑮ 訪問電影或動漫畫背景基地 ⑯ 體驗四季（賞櫻花、看海、觀紅葉、滑雪等）

3. 看見刺有紋身（刺青）的人，您的第一印象會是下面的哪一個？請選擇一個最接近您印象的。

① 很酷、帥氣 ② 恐怖、害怕 ③ 不愉快 ④ 會有宗教或文化的理由的吧
⑤ 是不是屬於反社會組織的人呢 ⑥ 不覺得有什麼特別的 ⑦ 其它（ ）

4. 在日本有很多公共入浴設施（溫泉設施、賓館或旅館的大浴場）是拒絕刺有紋身（刺青）的人入浴的，您知道這壹規定嗎？

① 知道 ② 不知道

5. 在日本有很多公共入浴設施（溫泉設施、賓館或旅館的大浴場）拒絕刺有紋身（刺青）的人入浴，對於這壹規定，您有什麼看法嗎？

① 太遺憾了 ② 過於嚴格 ③ 不能理解 ④ 如果這是日本的規則就沒辦法了
⑤ 是一個好規定 ⑥ 沒什麼特別的看法 ⑦ 其它（ ）

謝謝您的合作